

名事研=ユース

名古屋市立小中養護学校事務研究協議会
<http://meijiken.sakura.ne.jp/>

No. 132

平成18年 7月10日

発行 名古屋市立小中養護学校

事務研究協議会 情報部

発行責任者 白根 勲

5月24日、名古屋市教育センターにおいて平成18年度定期総会が開催されました。平成17年度の事業報告などの審議のあと、昨年度に引き続き、林会長が承認されました。平成18年度事業計画、予算案等についても承認され、今年度も「学校事務未来！一歩前へ」を年間テーマに、名事研活動がスタートしました。

新たな学校事務に向け さらに一歩を

会長 林 敦子
(御園小学校)



学校は、学校教育目標の達成に向けて、教職員の連携・協力のもとに運営されています。そして、学校事務職員は、教育課程の展開に伴う教材の整備や環境整備、安全管理をはじめとする学校教育全般の様々な場面で重要な役割を担っています。

行財政改革の大きな流れの中で行政評価の重要性が指摘され、各学校においても学校評価の取り組みが行われています。学校の教育目標や具体的な教育計画、活動状況などを保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況などに関する自己評価を実施し、学校としての説明責任を果たすための自己評価システムの確立が求められています。

そんな中、学校評価の方法や公表に関する指針づくりを進めてきた文部科学省は、今年の3月30日、外部評価を行うために委員会を設けることなどを明記した「学校評価ガイドライン」を策定し、都道府県の教育委員会などに通知しました。今回のガイドラインでは、自治体の設置者が、評価主体として地域住民や保護者らで構成する「外部評価委員会」を設置すると明記し、学校の自己評価や運営改善に向けた取り組みが適切かどうかを検証するとされています。また、自己評価と外部評価の結果をホームページで公表することなども促しています。

私たち事務職員も、まず学校事務領域において教育目標達成のためにどこまで到達できたかを明らかにし、その結果に基づいて改善を図るための学校事務評価を行うことが大切です。

- ・ 「学校事務」において、経営目標・経営方針・努力点や具体策を明らかにするために実施計画を立てる。実施計画は月別や学期別での年間計画で具体的な取り組みを示しておく必要がある。
- ・ 計画を実践、遂行したところで自己評価を行い、併せて学校全体で課題の整理と改善に向けた協議をする。教職員の共通理解を図るとともに、次年度への目標設定に活かしていく。

学校経営への参画を積極的に進めるためにも、目標と具体的な計画を設定し文章化することは、仕事の目的や根拠を明らかにすることができる有効な手段ではないでしょうか。

私たち学校事務職員は、新しい学校づくりのために、今何ができるか、何をしなければいけないか。先にあげた学校事務評価は一つの例ですが、他にもいろいろな取り組みがあるはずです。できることから始めていきましょう。新たな学校事務未来に期待して。

平成18年度 名事研活動について

副会長 山本 和彦
(伊勢山中学校)

名古屋市では、21世紀を担う子どもたちが、豊かな心を育み、夢や希望を持って世界に羽ばたく人間として育つように「教育改革プログラム」を策定し、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組んでいます。

本会では、学校事務の研究を推進して、教育目標の達成に寄与することを目的としています。

本年度も昨年度に引き続き「学校事務未来！一歩前へ」を年間テーマとし、さらに「一歩前へ進めるため」に会員自らが考え、参加型から提案型への魅力ある、新しい学校づくりを目指すために、会員一人一人の意識を高めて行動に移していくための方策を考えていきたいと思えます。

その方策を考える上で、「提案型事務職員を目指して」について、一つの方向性を示すものがあります。学校事務誌5月号において、兵庫県宝塚市教育長の勝山浩司氏は、「学校における意思形成過程において、助言及び提言等を行なう学校事務職員のスタイル」ということで、次のような5つの役割をあげています。

情報・データの積極的収集し、分析して、タイムリーに提供すること。 制度面、財政面、行政面、政策面など事務職員としての専門的視点から管理職に助言を行うこと。

総合的かつ全校的な視点で校内の諸組織間の意見、利害などの調整・整理を行い、ひとつの組織としての学校の一体化に資すること。対外的には、関係諸機関との橋渡しの調整・連絡をすること。 専門的立場から総合的かつ全校的な視野で具体案を企画立案し、問題点を付して管理職に提言すること。(玉砕型でなく、根回し上手に) 学校の現状と課題について、学校の内外に向けて情報発信・広報すること。

さらに、こうも述べています。「以上5つの役割を事務職員が果たさずして、適正かつ円滑な学校運営は確保されない。勤務校の現状・将来についてどう考えるか。自分のアイデアを持て。是非とも近いうちに学校事務職員出身の教育長を」といった具合です。

もちろん、提案型事務職員が意味するものは、上記の5つに限られるものではないと思えます。そのため、こういったことも踏まえながら、本会では、今後、政令指定都市等における学校事務職員を取り巻く状況等の調査を通して、名古屋の学校教育に相応しい学校事務・学校事務職員のあり方について考えていきます。

平成19年から平成22年にかけて、多くの先輩方が退職されます。しかし、属人的な職種といわれる学校事務職員の場合、その知識やノウハウを次の世代にどのようにつなげるか、これをどうナレッジ化するかという問題が残されているとともに長年、学校現場で学校教育を支えてきた先輩方の喪失を、どうフォローしていくか。どういう学校事務の組織化を考えていくのか。このあたりに名古屋の学校教育の盛衰を占うキーワードが潜んでいるようにも思われます。

講演 「名古屋の学校教育」

講師 名古屋市教育委員会 学校教育部長 山田哲郎氏



総会に先立ち、学校教育部長の山田哲郎氏より「名古屋の学校教育」と題して、講演をいただきました。

まず、「これまでの教員生活の中で出会った事務職員一人一人との関わりを通して学んだことがある。よく学校事務職員は一人職場と言われるが、職場においては教員も業務士も事務職員も同じ教育に関わる者として、学校の子どもの成長のため、ディスカッションが必要である。」と語られました。

また、学力低下問題と教育改革、二極分化の現状、子どもたちの現状についても詳しくわかりやすく説明していただきました。

最後に、「教育は結果や成果といったものが求められつつあるが、一人一人の子どもにとって見れば長い時間があるからこそ結果が出る場合が多い。賛成か反対かという単純な対応ではなく、不十分な点は大胆に改革するが、良い点は守るという姿勢が大切である。」と締めくくられました。



研究部

研究部長 中村紀子

現在、全国的に学校事務の組織化が進められています。その背景には、中央教育審議会における答申を始めとする行財政改革の影響などがあると思われます。今後、名古屋市においても政令市移管の問題を含め、学校事務の再構築が予想されます。

そこで、いくつかの県や政令市を対象に情報を収集することで、学校経営を支援する学校事務について研究します。

少数精鋭(?)で研究を進めていきます。会員の皆様の貴重なご意見や情報を研究部までお寄せください。

事務局

事務局長 服部紋子

「温故知新」自分が好きな言葉です。しかし、最近少し変わりました。今まで“古き”を温めすぎたり、過去にとらわれすぎて、心の底では“新しき”から逃げていたのではないかと。確かに過去の経緯や慣習といったことは大切です。しかし、今の時代むしろ“古き”を知らない方が、新しく素晴らしいものを作っていくのではないかとともに思います。ここ数年、名事研の活動や、各学校で頑張っている若い方たちをみるにつけ思います。せめて事務職員としての先輩である私たちが弱音を吐いて、若い息吹(やる気)をそぐことなく、何かしらの手助けができればと。こんな気持ちで、1年間事務局の事業に取り組んでいきたいと思っています。

研修部

研修部長 石原かおり

先日部会で事務長さんからお話を聞く機会がありました。制約された短い時間内でのお話でしたが、長い経験に裏付けられたお話はとても参考になり、改めて身が引き締まる思いがしました。若い会員の方々にもこうした機会を設定することが大切なことではないかと感じ、研修会開催にも活かして行けたらと考えています。

今年度も研修部では、基礎研修会においては学校事務職員としての基礎知識やノウハウを、全体研修会では身近でタイムリーなテーマを部員一丸となって企画・運営していきます。是非多くの皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

総務部

総務部長 加島道代

先日、名事研資料センターを見る機会がありました。研究成果が数々あり、今の名事研があるのは、先輩方のご尽力の賜物であると痛感しました。その時々で悩み考えつくり上げてきたことと想像できます。今の私たちもやるべき事をしっかり見極め、変化を恐れることなく、一歩前を行きましょう。

今年度の総務部は、3つの重点を決め活動します。総会や研究大会の運営マニュアルを作成し、効率よく準備・運営します。重要通知文集の更新をします。その更新作業を部内で分担してできるよう心掛けます。要覧などの資料を検討します。ホームページなどを活用して資料の提供方法を改善します。

情報部

情報部長 白根 勲

サッカーの中田英寿選手が現役引退を発表しました。彼は日本代表に今必要なものは何か、時には仲間とぶつかりながらも、伝えようとしたそうです。自分は彼のようなことはできませんが、様々な課題を解決するために、組織の中で自分が何をすべきかをいつも意識していなくてはいけないとあらためて思いました。

今年度の情報部は昨年度リニューアルしたホームページのデータベースの充実や各種調査、文書管理方法の提案を中心に、「一歩前へ」進むために、情報部員一人一人が知恵を絞っています。ご協力をお願いします。

平成18年度 役員等名簿

会長 林 敦子 (御園小)
 副会長 山本 和彦 (伊勢山中)
 副会長 中村 紀子 (鶴舞小)
 副会長 宇佐美吉勝 (御剣小)
 会計 服部裕実子 (中根小)
 監査 塩田 俊子 (大野木小)
 監査 大澤 克文 (八王子中)

世話係長 近藤 高弘 (中村小)
 副世話係長 佐藤 敬市 (北山中)
 県事研副会長 加藤 修市 (城西小)
 県事研監事 中村 紀子 (鶴舞小)
 県事研顧問 西脇 忠彦 (守山西中)
 全事研理事 松岡 美晴 (本城中)

表簿用紙規格研究委員会委員 二村 忠浩 (千石小)
 表簿用紙規格研究委員会委員 佐藤 恵子 (幅下小)

事務局 事務局長 服部 紋子 (豊臣小)
 事務局次長 加藤 豊子 (白鳥小)
 高木 英之 (今池中)
 則武 真雄 (日比津小)
 永井 智子 (大磯小)

林 昭宏 (矢田中)
 岩田さゆみ (前津中)
 大野真由子 (上社小)

研究部 ◎中村 紀子 (鶴舞小) 近藤友方美 (東白壁小) 桑山 賢治 (萩山中)
 ○毛利 和正 (豊田小) 長松軒由美 (黄金中)

研修部 ◎石原かおり (千年小) 山下 勲 (陽明小) 伊藤 真也 (貴船小)
 ○小池ひとみ (平子小) 山田 雅代 (八幡小) 遠藤 剛 (神丘中)
 山内 健嗣 (千種中) 中村 沙智 (豊治小) 田中 明美 (植田北小)
 坪井 宏之 (楠西小) 山崎 文恵 (森孝中)
 中村 昌也 (橘小) 黒田 裕子 (扇台中)

総務部 ◎加島 道代 (宮中) 川端 真実 (上名古屋小) 関水 紀子 (成章小)
 ○内藤 洋子 (助光中) 佐藤 治男 (米野小) 平岩 宗明 (大高小)
 ○近藤 高弘 (中村小) 串田 出 (円上中) 慶久 正喜 (千鳥丘中)
 井口 貴夫 (筒井小) 佐藤真澄美 (八熊小)

情報部 ◎白根 勲 (高田小) 中林 誠永 (金城小) 鈴木 俊太 (野田小)
 ○早川 数幸 (日吉小) 佐藤 恵子 (幅下小) 加藤 里香 (明德小)
 二村 忠浩 (千石小) 大河内威雄 (新栄小) 今村 京子 (高木小)
 濱田 光晴 (桜丘中) 安達孝一郎 (田光中) 土田 陽一 (廿軒家小)

[◎は部長 ○は副部長]